

授業科目	*看護総合演習（石井）					実務家教員担当科目	○
単位	1	履修	必修	開講年次	4	開講時期	通年
担当教員	石井 美紀代、目野 郁子						
授業概要	<p>看護実践及び専門領域上の自己の課題を探求するために、主体的に既習の知識・技術の統合を図りながら、課題への適切な介入の方法を討議・検討し、実習計画を立案する。看護総合実習での成果を基に、レポートを作成し、実習における実践を考察する。発表要約を作成し、グループ間で発表し、意見交換を行う。(看護総合演習は看護総合実習の事前事後演習として位置づける)</p> <p>授業は専門領域における実務家教員が各自グループメンバーの課題を踏まえ演習を進める。</p>						
授業形態	対面授業			授業方法			

## 学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 関心ある領域における知識・技術を深め、自己の課題について考えることができる。</li><li>2. 自己の課題を基に、看護総合実習の計画立案ができる。</li><li>3. 看護総合実習の成果を基に、テーマに沿ってレポートを作成し、看護及び専門領域を探求する。</li><li>4. 発表要約をもとに、グループ間で発表を行い、意見交換ができる</li></ol>
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 関心ある領域における知識・技術を積極的・主体的に深めるとともに、自己の課題について、グループ間で討議・検討し、広い視野から考えることができる。</li><li>2. 課題を基にした看護総合実習の計画立案では、関連する文献を読み込み、根拠に基づく実践を志向することができる。</li><li>3. レポート作成においては、看護総合実習の成果を基に、可能な限り先行研究を調べ、検討し、客観的・科学的に看護・教育を考察する。</li><li>4. 発表要約を作成し、わかりやすく効果的な発表を行い、積極的に意見交換を行うことができる。</li></ol>

## 評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	0%	
小テスト	0%	
レポート	60%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	20%	
レポート外の提出物	20%	
その他	0%	

## カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1 - DP2 ○ DP3 ○ DP4 ○ DP5 - ナンバリング NU31407J

學習課題（予習・復習）

学生が主体的に課題を探索し学習する。 1

学生が主体的に課題を探索し学習する。

## 授業計画

第1回	<p>1. オリエンテーション（各担当教員） 演習の概要について説明し、その履修方法や演習の目的、達成の目安、評価の内容と方法を説明する。</p> <p>2. 看護総合演習は看護総合実習の事前事後演習として位置づけ、看護総合実習に向けて学生個々の課題（事例）を明確にする。学生は既習の専門知識の整理・統合を図りながら、課題（事例）への</p>
-----	---

	<p>適切な介入および必要な看護技術について、確認し熟達を図る。</p> <p>3. 課題（事例）解決に向けて、看護総合実習の実習計画書を立案する。</p> <p>4. 看護総合実習の成果を基に、レポートを作成する。グループ間で発表を行い、意見交換し、看護総合実習における実践を考察する。</p>
テキスト	指定なし。必要に応じてプリントを配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	課題に応じて主体的に文献を探索する。必要があれば、担当教員が紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	評価については、一連のプロセスにおいて演習に対する各自のテーマ設定や取り組み姿勢も含めて最終評価し、個別にフィードバックします。
学生へのメッセージ・コメント	<p>これまでの臨地実習・演習における看護実践を振り返り、必要な事項は学習しておくこと。</p> <p>学習活動は、すべて学生が主体的に計画することを原則としています。自ら積極的に学習し、グループ間で課題を共有し、討議・検討を進めていただきたい。</p> <p>社会に出て活躍できる看護職者としての看護実践能力、人間力を養うために、自己の課題に向き合い、主体的な学習を期待します。</p>